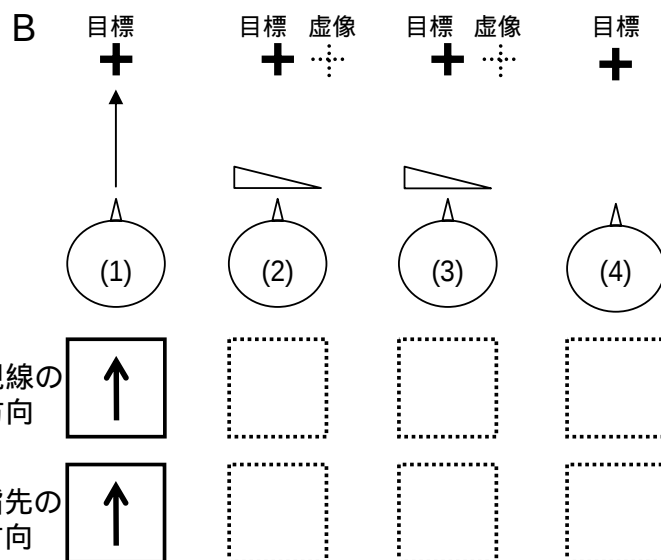
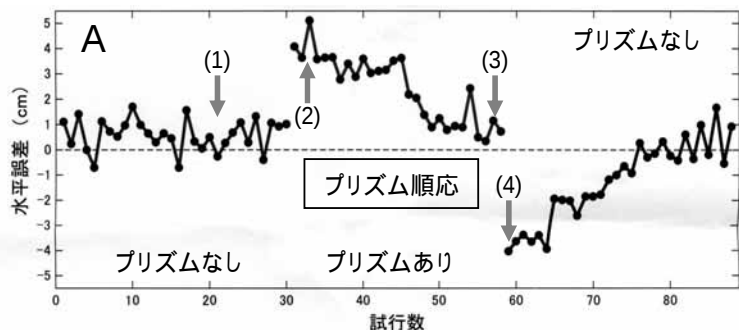


到達運動におけるプリズム順応

番号

氏名

以下の図は、実習中(実験1:プリズム順応の基本)に測定された到達運動の水平誤差のデータ(A)とプリズム順応の模式図(B)である(図A矢印(1)～(4)は図Bの(1)～(4)にそれぞれ対応する)。次の問に答えなさい。



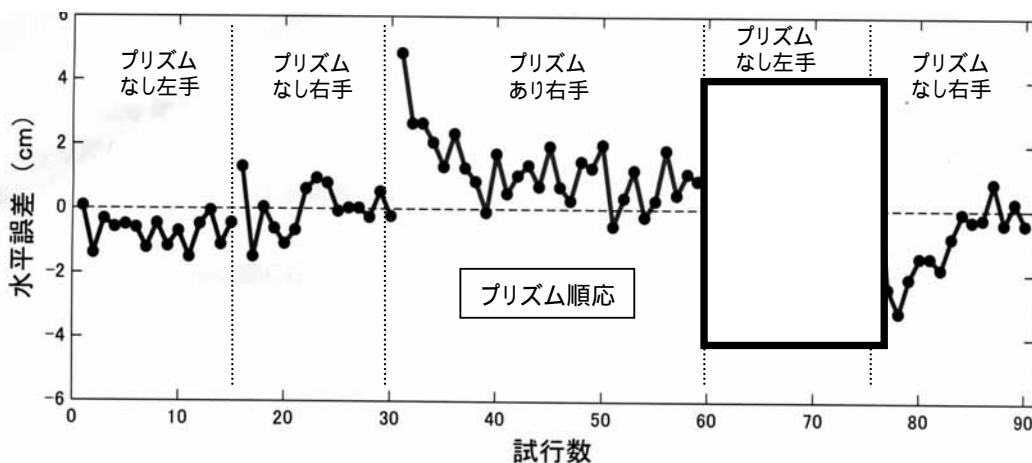
問1. 図Aの水平誤差のプラスの値は、(ア)右方向、(イ)左方向のいずれを示しているか。ア、イのうちから一つ選び解答欄に記入しなさい。

解答欄

問2. 図B(2)～(4)に対応する視線と指先の方向を(1)にならって破線四角内にすべて矢印で記入しなさい。また図A矢印(4)のように、プリズムをはずした後、に生じる誤差を何というか。解答欄に記入しなさい。

解答欄

以下の図は、実習中(実験2:両手間転移)に測定された水平誤差のデータである。次の問に答えなさい。



問1. 右手の到達運動がプリズムに順応した後、プリズムをはずして反対側の左手で到達運動を行ったとき、一般にどのようなデータが得られるか。図中の空白部分(太枠)に予想される結果を線で記入しなさい。

問2. 予想される結果から、運動の技能はどのように脳内に蓄えられると言えるだろうか。述べなさい。